

平成26年度 標茶町立沼幌小学校 学力向上プラン

標茶町立沼幌小学校

Check
検証

◇平成25年度全国学力学習状況調査及び本校実施 NRT 学力検査結果の分析、個別の指導計画(一人一人の指導計画)における指導結果から検証

■全国学力学習状況調査結果(6年生)から、正答率において、国語A・国語B、算数A・算数Bともに全道・全国より高い。

○設問別に見ると国語Aの「書く」、算数Bの「数と計算」に課題がある。

■NRT 結果(2年)から※4学年は欠学

○国語・算数ともに、全国水準をほぼ上回っている。

○全国水準を下回っていたのは国語の「読むこと」の領域のみ。

○算数において、「量と測定」「図形」の領域は特に優れていた。

■CRT 結果

○国語は、ほぼ全国水準である。「書く」「話す」「関心」の数値が高いのに比べて、「活用」の数値が低い。

○算数は、ほぼ全国水準を下回っていた。全国水準を上回っていたのは「活用」のみ。

■「個の高まり」を目指した多様な授業づくりの成果と個の指導計画を活用した学力状況から

○ノートに自分の考えをまとめ、根拠をもって発表する活動や、調べ学習等が計画的に取り入れられ、意欲的に学習に取り組んでいる。

○発達段階や教科に応じたノート指導、学習シートの活用等個に応じた指導の充実を図り、基礎基本の定着が図られてきた。

○一人学年の指導の充実を目指し、児童の授業に対する意欲や積極性が高まった。

○「わかった」というレベルから、「できた」という実感を伴う授業構築が必要

○漢字や計算など基礎的な内容の確実な定着と繰返し指導による習熟が必要

○算数の「量と測定」「図形」「数量関係」の領域は、個人の差があり継続的な指導が必要

○「ひとり学び」は、時間がかかることを踏まえ、指導・検証を継続

■朝活動を曜日ごとに学習や読書等を割り振り活動させたことで、集中して取り組む姿が見られた。チャレンジテストに参加するなど朝活動の工夫・充実を図った。

■学習のきまりや話し方、聞き方の指導を全校一体で取り組み、児童の自己評価を実施した。

■家庭学習に対する方針を保護者会で説明し、研修時間に職員で指導方法等交流を図り、長期休業中における補充指導を実施した。

■家庭学習の習慣化により基礎基本の定着が図られたが、更に学年や個に応じた家庭学習の内容の工夫が必要

■宿題の取り組み状況から、つまずいている学習内容を把握し、授業に生かす等授業改善の継続

ACTION
改善

◇課題解決の視点の明確化

■授業の工夫改善による課題の解決

■学校の教育活動の見直しによる課題の解決

■家庭・地域との連携を図った課題の解決

■教員の指導力向上による課題の解決

Plan
計画

◇課題解決の手だて

- わかる喜びや学ぶ楽しさを実感させる授業の充実を図る
- 朝活動、放課後活動の有効的な活用を図る
- 家庭と連携した学習習慣の定着と継続への支援を図る
- 教員の資質を高める研修の充実を図る

◇改善に向けた具体的方策

- 日常の授業の充実～学習内容の基礎基本を確実に習得させる取組
 - 発達段階や教科の特性に応じたノート指導の工夫、板書・発問の工夫、学習シートの活用などによる教科指導の充実
 - 自分の考えをノートにまとめ、根拠をもって発表する問題解決的な学習と、各教科の特性に応じた学び方の指導の継続
 - 授業のゴール（到達目標）を明確にし、「できた」という実感を伴う「終末を大切にした授業」の構築
 - 個別指導計画に基づき、一人一人の学習状況を把握し、学習内容の確実な定着につなげる。（個に応じた教材提供、授業形態の工夫、視聴覚機器の効果的な活用）
 - 合同授業、教科担任制、TTの導入など実態とねらいに応じた指導形態の工夫
 - 国語～平仮名、片仮名、漢字習得の定着。自分の考えを簡潔に書く力や要約する力の育成、様々な文章や資料を読む機会の充実
 - 算数～一単元の中で評価する機会を複数回もち、できていない児童に対しては補充学習等で定着の徹底。基本的な計算力の定着。長さや重さ、時間などの量感を豊かにするため、具体物を使うなど実感を伴った学びの工夫（量と測定、数量関係の領域の定着）
 - 社会・理科～算数と関連し、表やグラフを活用する力の伸長、算数的活動を通じた問題解決的な学習の重視、科学的な見方や考え方を育てる指導の工夫
 - 低学年からの計画的な「ひとり学び」の指導と、中高学年における確実な定着、探求する力の伸長
- 全校一斉による朝活動、放課後活動の工夫
 - 自ら継続的に学習する機会を確保～学習意欲の向上と学習習慣の形成～
 - ・20分間の朝学習の継続(基礎基本の定着、補充的な学習)と漢字・計算のテストの連動
 - ・チャレンジテスト、全国学力・学習状況調査問題の活用
 - ・放課後活動の計画的な有効活用（学習強化月間の設定、金曜日の6校時目の活用）
 - 読書活動の充実
 - ・朝の一斉読書タイムの継続（週1回）、読み聞かせ会・ブックトーク（月1回）、移動図書館バスの活用（町立図書館との連携）
- 家庭との連携
 - 家庭学習の習慣化
 - ・児童に対する家庭学習のねらいや進め方の指導（自分の弱点を克服する学習へ移行させていく工夫）
 - ・家庭学習の時間の目安（学年×10分以上）や内容を明文化し家庭への啓発、教師が毎日取り組み状況を点検、子どもの自己評価、プリントのファイル化
 - ・児童の発達段階や個の学習状況に応じた家庭学習の内容や時間、課題の量の目安を提示（漢字・計算・音読・視写等の基礎基本的な課題や自学ノートの提出等）
 - ・家読書の推進
 - 生活習慣の改善、家庭と協力した「早ね、早おき、朝ごはん運動」の推進
- 教員の指導力向上
 - 教務を中心としたチームで学力検査等の分析から課題解決のための具体策を検討
 - 学力向上を見据えた授業の工夫改善につながる校内研修の充実
 - ・町内・地域・保護者への積極的な授業公開、複数回の主事要請訪問
 - ・子どもによる授業評価や教師相互の授業評価の実施（事前研・事後研を含め授業交流機会を定期的に確保、校内研究授業時の教師相互の授業評価、子どもによる授業評価）
 - 校外研修への積極的な参加
 - ・計画的な校外研修への参加と報告交流等による指導力の向上
 - 外部講師や指導主事等先進的な指導や教育情報の取得による指導力の向上

Do
実施

Check
検証

- ◇全国学力・学習状況調査及び、町内実施のCRT 調査、本校実施のNRT 調査結果分析による検証
- ◇日常の教育評価を中心としたデータ収集と追跡(ひとりひとりの個別計画)による検証
- ◇保護者、地域からの日常的な意見聴取やアンケート、学校関係者評価等による検証
- ◇教師の学級経営反省と子どもの成長の見取りによる検証

ACTION
改善

- ◇検証に基づき改善点を明確化する